

A-1 リーフレット

研究仮説

仮説 1

「課題解決的学習」と「教えて考えさせる授業」を取り入れて、**わかる楽しい授業づくり**に努めれば、児童はやる気や満足感・成就感を持ち意欲的に学習するだろう。

仮説 2

学習の基礎づくりと家庭学習の充実に取り組み、**進んでできる自分づくり**に努めれば、児童は個の学習を確立し自主的に学習するだろう。

仮説 3

自己肯定感・自己決定・自己貢献感を味わえる活動を進め、**高め合う仲間づくり**に努めれば、児童はお互いに協力してよりよい学級・学校を作ろうとするだろう。

学校教育目標  
自ら学び心豊かに生きる健やかな児童の育成

研究主題  
心豊かに生き生きと活動する子をめざして  
～心の居場所を基盤とした確かな学力の育成～

カウンセリングマインドを生かした支援

カウンセリングマインド（積極的傾聴、共感的理解、受容）  
平成13年度より継続～学級経営の基盤  
→ 学習指導の中でも一人ひとりの居場所づくり  
「意欲を高めるための手だて」「課題を解決したことを広める手だて」

視点1 子どもと教師、子どもどうしがお互いのよさを認め合い、互いに尊重できるようにすること  
(自己肯定感)

視点2 教師が子どもの考えや判断を大切に、それを生かす場をあたえること  
(自己決定)

視点3 子どもが自分は役立っていると感じられる体験をすること  
(自己貢献感)

課題解決的学習

課題解決的単元計画

「つかむ→調べる→まとめる→活かす(広げる)」  
《各教科ごとに工夫》

課題解決的授業構成

「つかむ」(課題設定・一斉学習) 課題提示の工夫  
「考える」(解決努力・個別学習) 考えを書かせる  
「深める」(比較検討・一斉学習) 話し合いの工夫  
「まとめる」(定着・個別学習) まとめとふりかえり  
《各教科ごとに工夫》

教えて考えさせる授業

何を教え、何を考えさせるか

《算数科での取り組み》  
「つかむ」と「教師からの説明」～定義の理解  
「考える」～基本的問題の説明活動、教え合いなど  
「深める」～練習問題へのチャレンジ  
「活かす」～理解の共有、生活の中の算数

少人数授業とT.T

4～6年生の算数科

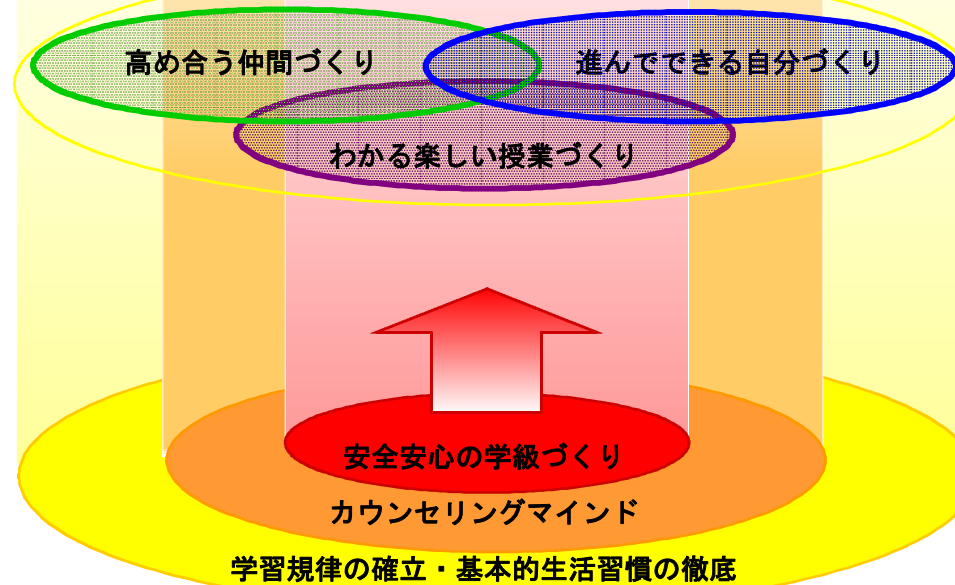
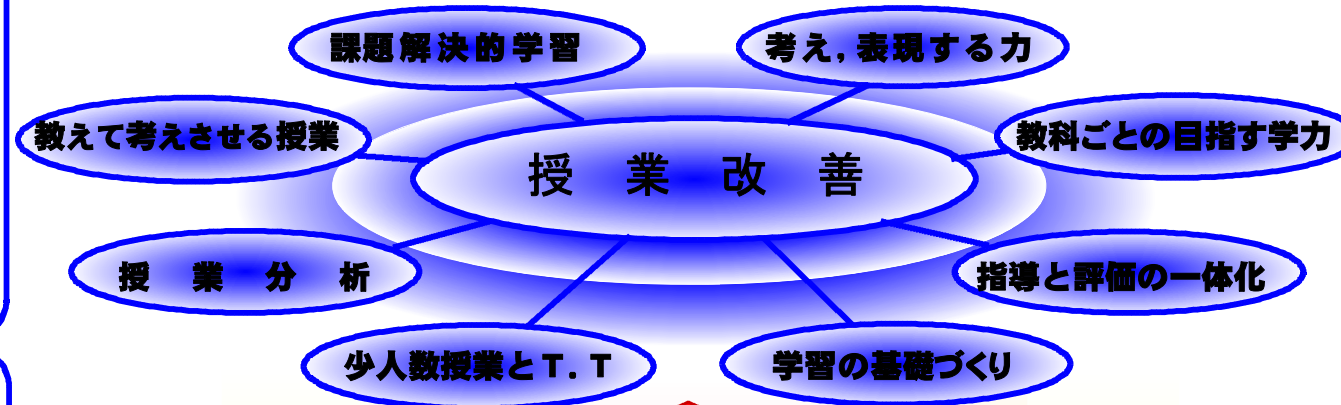
- ① 習熟度別少人数指導
- ② 単元・教材の特色に応じて課題別グループ

1, 2年生算数科はT.Tによる指導

授業分析

1人年4回の研究授業

5項目4段階評価とコメントを記録シートへ  
数値結果をレーダーチャートに→傾向と課題を明確化



考え、表現する力

教科ごとの「考え、表現する力」育成のための具体的な手だて

- ・根拠のある自分の考えを持つ
  - ・友だちの考えとの比較する
  - ・既習の言葉を使って表す など
- 一人ひとりで考える  
時間の確保と支援

指導と評価の一体化

県基礎学力調査結果を指導に生かす

- ・結果から推定した児童の実態と指導課題の検討
- ・児童個々の再学習への活用
- ・指導法の改善と実践

評価計画の見直しと改善

- ・評価の時期～学年・学期・単元・本時
- ・評価の場面～学習前・学習途中・学習後

学習の基礎づくり

朝自習 漢字・計算・読書

百マス計算 強化週間 年3回

チャレンジ計算・チャレンジ漢字 年2回

家庭学習の工夫 内容・時間・計画性・意欲付け

読書習慣の形成 読書カードの改善 学級文庫の充実

教科ごとの目指す学力

学習指導要領

県基礎学力調査結果

児童の実態  
などから

- ・改善策と具体的な取り組み内容
- ・考え表現する力の育成を組み入れて